

令和5年度 東又小学校 経営方針

1、教育基本方針

本校の実態や特性を踏まえ、国・高知県・四万十町のエ育行政方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育を創造し、心身ともに健康で人間性豊かな児童を育成する。

2、学校教育目標

「思いや考えを伝え合い、主体的に学び合う児童の育成」

3、目指す子ども像・教師像・学校像

(1) 目指す子ども像

☆かしこい子
☆やさしい子
☆がんばる子
～役に立つ喜びを知る子～

(2) 目指す教師像

☆一人一人を大切にする教師
☆自己啓発に努める教師
☆地域を大切にする教師

(3) 目指す学校像

☆明るく活力のある学校
☆助け合い励まし合う学校
☆地域とともに歩む学校

4、校内研究主題

「自発的・自治的な活動を通して、集団の中で自分の役割を果たす子どもの育成」
～学級活動・異学年交流を通して～

5、令和5年度教育の重点

(1) 基礎学力の定着と学力の向上

① 校内研修の充実

これまで、友達と意見交換をすることで、自分の考えを再構築することができるような活動へと高めていけるように研究を進めてきた。

今年度も、引き続き「話し合い活動」を通して児童に力をつけていけるように取組んでいく。昨年度の課題である聞き手の育成、意味のある話し合いやねらいにせまる話し合い活動の充実を図るようにしたい。

また、全校統一した学級活動(1)(2)(3)や主体的な異学年交流についても研究を深めたい。

併せて、興津小学校との合同職員会を通して、研究の統一を図っていく。

② 授業改善

今年度も初任者、2年次と若年教員がいることから、引き続き問題解決的な授業スタンダードを行い、授業改善を図ることに取り組んでいく。また、単元計画表をもとに、ゴールイメージをもつとともに授業に生かされる振り返りの充実を図る。

③ 主体性を引き出すような取組を進める

課題を自分で見つけ、「主体的に学び合う」児童主体で作り上げていけるような授業や活動を取り入れる。

委員会活動などを見直し、決まったことをルーティーンとして動くだけでなく、みんなのために毎日できることはないか、啓発活動となっているかを考え、自発的・自治的な活

動となって発信できるようにする。

縦割りの班会議の継続。個人⇒学級（学年）⇒全校へ発信

④ 基礎学力の定着と学力の向上

朝学習や漢字チャレンジタイム、放課後加力指導を活用し、国語・算数を中心に基礎基本の徹底を図る。放課後加力指導は、今年度も、民生委員・児童委員さんに協力して頂く。NIE タイムを活用し、読み取る力や書く力を伸ばす。また、今年も様々な体験や経験をもとに、記事を書き、高知新聞に投稿する目的をもち、書く力をつける。タブレットタイムでは、授業に繋がる内容に取り組むようにする。

全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査、標準学力調査において、全国平均以上を取れるようにする。

⑤ ノートづくりの充実

丁寧に、分かりやすく、思考が深まるノートづくりを行う。振り返りの質と量を上げ、児童の見取りを授業に生かす。

⑥ 家庭学習

家庭学習の質と量の充実を図る。（四万十町全体で統一）

授業に活きる家庭学習の在り方を工夫する。（タブレットの活用）

授業に関連付けての家庭学習。学力定着を図る前年度や前単元の復習も入れていく。

⑦ 興津小学校との連携

計画的に興津小学校との交流を実施する。（1 学期 1 日、2 学期 2 日、3 学期 3 日）

（2）心の教育の充実

① 道徳教育・人権教育・特別支援教育

『考え行動する道徳授業』の推進と、道徳科の評価の工夫改善を行う。

Q-U 調査アンケートの活用、SC との連携により、一人一人の心に寄り添った児童理解に努め、友達の良さを理解し互いを尊重しあう心の育成を図る。

② 読書活動

読書は心を豊かにし、学力向上につながる。昨年度までの取組と同じく、町立図書館にも協力して頂き、先行読書や並行読書を行うとともに、調べ学習なども含めた図書館教育の充実など、継続した取組を進める。

目標冊数を定め、子どもが学校図書館へ定期的に通い、進んで読書をするような取組を行う。学期ごとの目標冊数を決め、早い時期から担任が児童に働きかけをすることで、達成できるようにする。

（3）健康・安全教育の充実

① 防災教育、安全管理

安全教育の一環として、組織の確立、防災避難訓練、災害発生を想定した訓練の一層の徹底を図るとともに、防災学習の取組を引き続き行う。今年度も、「防災学習週間」を年間 5 回位置づけ、計画的に授業を行うことや学校での防災キャンプ、興津での津波から逃げる避難訓練を行うなど、地域に密着した取組が進められるようにする。統合を視野に入れ、興津小学校との合同での避難訓練も実施していけるようにする。

火災避難訓練や、不審者対応避難訓練等、安全対策をしっかりと取れるような学習を行うとともに、定期的に安全点検を行うようにする。

② 体力づくりの取組

走る・跳ぶ・泳ぐ・投げるなど、年間を通した体力向上の取組で、基礎・基本を習得させる。

体力テストの結果をもとに体力面で弱いところを強化するよう工夫して取り組む。

③ 基礎的生活習慣づくりの取組

生活習慣は学力との相関がある。生活調べを実施し、その結果を家庭と共有し、基礎的な生活習慣を定着させる。電子画面についても、年間を通して指導を続ける。

「早寝、早起き、朝ごはん」が身に付いた生活ができるようにする。

④ 食育

食は生きる上で欠かせないものである。義務教育初期の段階での指導がより効果的であり、栄養教諭との連携や、給食指導の一層の充実を図る。

昨年度まで「よい歯の表彰」を5年間引き続いて受けた成果を生かし、今年度も引き続き、齲歯罹患率を減らしていくことで、将来にわたって健康に食べられる歯を育てられるようにする。

⑤ 不登校対策

楽しい学校・学級づくりを行い、行きたくなる学校づくりをする。

様々なアンケートを有効に活用し、検証しながら対応する。また、担任一人で抱え込まないよう、チームとして動けるように、SCやSSWを巻き込んだ校内支援会を実施する。

(4) 学校・家庭・地域との連携

① 保小中連携教育

子どもの発達や学びの連続性を踏まえた保小の接続を組織的に取り組み、子どもの健やかな育ちにつなげるようにする。

スタートカリキュラムの作成・実施により、円滑な保小の学びや育ちをつなげ、スムーズな学校生活を送れるようにする。

窪川中学校との小中連携を継続し、スムーズな接続ができるようにする。

② 地域学校協働本部

「地域学校協働本部」の充実を図り、これまで以上に子どもたちを日常的に見守っているようにする。

「東又の子どもを守る会」等の会では、地域とともにある学校づくりを進める。

③ 地域資源・人材バンクの活用

生活・総合的な学習の時間やクラブ、東又まつりなど、地域の特性に合わせた活動を行うために、地域資源や人材を活用する。

学校林やビオトープなど、学校にある資源を、今後もより一層有効活用する。